

審議会等会議録

審議会等の名称	令和 6 年度第 2 回山口市立図書館協議会
開催日時	令和 6 年 1 1 月 2 1 日（木曜日） 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0
開催場所	山口情報芸術センター多目的室（2 階）
公開・部分公開の区分	公開
出席者	安光会長、伊東副会長、井上委員、福永委員、属委員、中村委員、三坂委員、岡藤委員、若原委員
欠席者	仲村委員、安光（真）委員、瀬川委員
事務局	大井中央図書館長、杉山小郡図書館長、網田秋穂図書館長、国重阿知須図書館長、榎本徳地図書館長、徳本阿東図書館長、高村中央図書館管理担当主幹、一村中央図書館サービス担当主幹
議題	1 今年度事業の実施状況について 2 山口市立図書館のサービスに関するアンケートの集計結果について 3 その他
内容	○中央図書館 高村管理担当主幹 本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。 （資料確認） それでは、今年度初めて出席される委員の皆様から自己紹介をいただきたいと思います。 属委員、中村委員、岡藤委員（自己紹介） ○中央図書館 高村管理担当主幹 会議の成立についてです。本日の会議については、仲村拓真委員、安光真裕美委員、瀬川直子委員が欠席ですが、委員の過半数の出席がありますので、山口市立図書館条例施行規則第 2 4 条の規定により、会議が成立していることを報告します。これからの議事進行を安光会長お願いします。 ○安光会長 ただいまより令和 6 年度第 2 回山口市立図書館協議会を開催します。 本日の協議会の議事録を作成するために録音することと議事録をホームページに掲載することに同意いただけますでしょうか。 （了承） 発言の際にはお名前をお願いします。 今年度事業の実施状況について事務局から説明をお願いします。 ○中央図書館 大井館長 中央図書館分の今年度事業の実施状況と今後の予定の主なものについて説明します。図書館利用層の拡大を図るための取組としては、作家講演会として、来年の 2 月頃に開催を予定しています。また、企画展示については、2 カ月に 1 回程度、テーマを変えながら展示をしまして、ちなみに 1 0 月、1 1 月につきま

しては、「自分らしく生きる」をテーマに、定年退職前後の過ごし方や働き方、仕事を題材とした小説、働き方のヒントになるものなどの図書を展示しています。

また、市の他部署と連携した講座については、9月20日に健康増進課と連携したウォーキング講座を実施しました。

また、民間事業者と連携した事業については、読書週間に合わせて、「レノファ山口F Cの監督や選手のおススメの1冊」を館内のレノファコーナーにパネル展示をするとともに、10月27日には、維新みらいふスタジアム内でも、同じパネルの展示をしています。

また、まちじゅう図書館の取組については、昨年度までに実施していた協力いただいている店舗を訪れるスタンプラリーに替えまして、10月27日にまちじゅうDAYとして、ワークショップや店舗を紹介したパネル展示をしています。特にプルプルとした石鹸を作るというワークショップがありまして、その中では多くの子どもさんで賑わっていました。

また、ワイワイ図書館については、第1回の当協議会で報告をさせていただいたものでございます。

また、図書館まつりについては、実行委員会を主体として、8団体の協力をいただきまして11月17日に開催をしました。実施内容については、ブックリサイクルや上映会、朗読マラソン、私の1冊と題した講話などを行いました。今回は、多くの県立大学の学生の皆様に協力をいただきまして、学生企画につきましては、3つの企画が行われ大変賑わっていました。

また、スターバックスコーヒーによるコーヒーのテイスティングもしていただきました。当日の各イベントの参加者の合計は、1,800人余りでした。

次に、子どもの読書活動の推進に関わる取組としては、絵本作家などを講師とした行事として、来年の1月にイラストレーターで絵本作家のHaiji氏によるワークショップとイラスト展の開催を予定しています。また、おはなし会としては、乳幼児向けのぴよぴよおはなし会として読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを行っています。小学校中学年までを対象とした、日曜日のおはなし会や、パレットの会による、おはなしパレットも実施しています。

また、2カ月に1回程度、テーマを替えながら企画展示をしています。10月、11月には、「どんな秋」をテーマにスポーツや食べ物、秋の風景を描いたものなどの図書を展示しています。

次に、デジタル技術を活用したサービスの充実については、電子図書館の導入や図書館システム更新に向けた調査研究として、他市の状況や市立図書館のサービスに関するアンケートなどの意見を踏まえながら、次期システムや電子図書館について検討しています。

○安光会長

小郡図書館お願いします。

○小郡図書館 杉山館長

小郡図書館の令和6年度事業の実施状況について報告します。

まず、本年4月20日に現在の小郡図書館がリニューアルして15年半経って、入館者数が200万人を突破しました。当日は、大井中央館長や小郡図書館友の会「鉢の子」の田澤代表をお呼びして、200万人目の入館者になられた家族に、記念品や花束の贈呈と、記念写真の撮影などのセレモニーを行いました。

次に、資料の1ページ、令和6年度の事業内容ですが、新規事業について説明します。小郡図書館の新規事業は図書館施設の改修として、外壁改修工事や空調機改修工事を挙げています。

まず、外壁改修工事については、先般、建築課で入札を行いましたが、不調となったと聞いています。再度入札が行われることになっていますので、工事は、恐らく年明けになるかと思います。

次に、空調機改修工事ですが、小郡図書館の空調機については、5系統に分かれていまして、今回改修する空調機は、館内の中央部分を空調しています第2系統のコンプレッサーの取り換えです。コンプレッサーが2基ありまして、そのうち1基が壊れたため、その取り換えを行うものです。これについては、5月に取り換えが終わっています。その後、第1系統のコンプレッサーが壊れ、それも2基あるコンプレッサーのうち1基が壊れ、これも取り換えが必要ということで、来月12月に取り換え工事をする事になりました。平成20年に建て、15年経ちますので、あちこち、ガタがきています。

その他の事業についても、定例のおはなし会、折り紙教室を始め、地域交流センターとの上映会や友の会「鉢の子」との共催事業など、着実に実施しています。

次に、11月3日の小郡図書館まつりについて報告をします。今年の図書館まつりは、おはなし会スペシャル、図書館の本から生まれた作品展、ディアボロを作ろう、ライリーとの記念撮影、ブックリサイクルを開催しました。おはなし会スペシャルでは、おはなし会にバルーンアートや折り紙を交えて、いつもとは違うおはなし会を行いました。ディアボロを作ろうでは、ディアボロというのは、よく大道芸でしています中国ゴマです。それを図書館のレシートの芯を使って作ろうということでワークショップを行いました。

当日は隣接の総合支所駐車場で、小郡福祉まつりや健康まつり、消防まつりが開催されており、小郡図書館の入館者数も、714人と多くの方にお越しいただきました。

○安光会長

秋穂図書館お願いします。

○秋穂図書館 網田館長

6年度の事業内容について説明します。図書館利用の促進ということで、ワイワイ図書館、図書館まつり、ワイワイ図書館は301名、図書館まつりは573名という入館者を迎え、例年よりも多い参加者数でした。また、これに合わせて

交流センターで実施される、ふれあい祭りや秋穂まつりといった機会を捉え、ブックリサイクルを行事として行い、図書館に足を運んでもらえるきっかけづくりに努めています。

学校との連携の利用促進については、放課後児童クラブ。今、秋穂図書館を利用いただいていますのが、佐山地区、鑄銭司地区、それと大海の放課後児童クラブが利用されていますが、今年度から新たに山口南総合支援センター（学校）の中等部の方も、地理的に近いというのもあって、利用いただけるように定期的になりました。

また、防府市の大道の放課後クラブからも引き合いがありました。市外の児童クラブということで、そこは登録には至っていません。

子どもの読書活動の推進については、定期的なおはなし会の開催に加えて、来月5日にクリスマスのおはなし会スペシャルを用意しており、今、すでに参加定員に達しておりますが、楽しいクリスマス会でのおはなし会を実施したいと考えています。

秋穂図書館は、2010年8月に今の図書館が開館し10月19日に入館者70万人を達成しました。先ほどの小郡図書館同様、花束と記念品、それから職員手作りのメダル等を贈呈し、70万人目ということで、お祝いをしました。

最後に、秋穂図書館は5名の職員で運営しておりますが、7月に職員の1人がインフルエンザに罹患しまして、それが職員間にうつってしまったということで、7月9日から14日の間に次々と職員が倒れていくという中で、1人職員が1週間忌引ということで、実質元気だったのは私1人だったという状況に陥りました。少し時間差があったので通常3名、4名体制で運営していますが、急遽2名での体制で、ただ、業務継続のための危機管理として、決して図書館を閉めるようなことがあってはいけないということで、中央図書館や小郡図書館に協力をいただいて、職員を派遣していただくという形で、何とか急場をしのぎました。そうした中で、人数の少ない地域館として、その辺の危機管理もしっかり準備をして対応していく必要があると改めて思いました。

○安光会長

阿知須図書館をお願いします。

○阿知須図書館 国重館長

令和6年度事業の実施状況について報告します。

「ア 利用しやすい環境づくり」、「イ 新たな利用者の拡大促進」及び「ウ 学校等との連携強化」の取組については、順調に進めており、今後も引き続き取り組んでいきます。

以前、ご評価頂きました「おすすめ本を教えてください」のポップの掲示や資料展示も、小学生、中学生、大人に併せて職員の「おすすめ本」の展示なども、時期を分けて継続して取り組んでいます。

新規事業については、図書館施設の改修として「屋根のシート撤去工事」を蔵

書点検期間中の10月2日～8日に行いました。これは屋根にありますモニメントのシートを鉄骨の老朽化に伴い風の抵抗を減らすために撤去したものです。また、このシート撤去により天窓からの直射日光を避けるため、併せて「フィルム設置工事」も行いました。

次に、「第22回きさら館まつり」ですが、これは毎年11月3日の文化の日に開催しており、この日は510名の方が来館されました。例年企画として、「本のリレー市」、「おはなし会」、「上映会」を行い、「本のリレー市」では、来館者などから提供頂いた本、約1000冊を陳列しました。このうち文庫本は約660冊ありました。このリレー市は図書館まつり後の図書整理日まで陳列を続けていますが、先日、すべての本をお持ち帰り頂きました。「おはなし会」では33名、「上映会」は41名、それぞれ参加がありました。その他の企画としては、大人の人には是非読んでほしい絵本1冊を入れた「大人向け絵本袋」を先着30名に配布しました。また、折り紙で作った花や虫、動物などを釣り上げる「折り紙フィッシング」に98名が参加され、そのうち本を借りて頂いた62名にしおりを配りました。最後に、ちりがみで花の形の球を作り、ポンポンのようにした「フラワーポンポンを作ろう！」に83名の参加がありました。また、来館してくれた子どもたちには、バルーン（87個）を配り好評でした。

○安光会長

徳地図書館をお願いします。

○徳地図書館 榎本館長

徳地図書館の今年度事業の実施状況について申し上げます。

まず、図書館利用促進のためのイベントとしては、9月に地元の幕末維新史を研究されている方を講師にお招きし、幕末の徳地代官にスポットを当てた、歴史講座を開催しました。市外からも来場があり、多くの方に聴講いただきました。

また、10月には地域の読み聞かせボランティアの協力により、山陽小野田市立中央図書館の山本館長を講師としてお招きし、ストーリーテリングの集いを開催いたしました。今年は6名の方にお話を語っていただき、それぞれ講師から、熱心にご指導いただきました。今年度は参加者からの要望に応じて、山本館長による読み聞かせ講座も同時に開催し、初心者にもわかりやすく解説をいただきました。

次に、子どもの読書活動の推進については、主に、未就学児や小学生を対象に、DVD上映会やゲーム等を行う、ワイワイ図書館や、イースターイベントの開催をはじめ、一定期間に30冊以上の本を借りた小学生以下の子どもに、景品をプレゼントするブックリンピックなどを開催し、子どもたちに、気軽に図書館へ足を運んでもらえるよう、努めてきました。

また、ブックスタート体験会については、これまで、地域交流センターへの会議室のみで行われていましたが、今年の6月開催については、市の保健センターと連携し、図書館の視聴覚室において、子どもの健康相談と同時に開催をしまし

て、来場いただいた父兄に図書館を案内するとともに、ブックスタートの対象以外の子どもにも、読み聞かせを行いました。

○安光会長

阿東図書館をお願いします。

○阿東図書館 徳本館長

今年度の主な実施事業について説明します。

今年度の事業については、着実に実行しています。中でも、特に8月4日に行った図書館まつりは、海をキーワードとして、実施をしまして、5つの企画イベントを組み込んで実施しました。DVD上映会、工作教室、おはなし会など5つありまして、そのイベントに参加されました合計人数が135名となっています。また、ヨーヨー釣りも実施をしました。

図書館入り口前には、海をキーワードとしていますので、それに沿ったバルーンアートで飾りをつけるようにして、お子さんに喜んでいただきました。

その他の事業としては、DVD上映会、これをこれまでに5回、大人向け、子ども向け、実施をしています。また、工作教室、折り紙教室を各1回、実施しており、お子さん、それから親御さんにも、喜んでいただきました。さらには企画展示も随時実施をしています。

今後については3月頃に、大野先生のDVD上映会を実施したいと考えています。また、来年度に向けて話が来ていますが、阿東には阿東文芸懇話会というのがあります。阿東のエッセイや詩をまとめた冊子がありまして当館にも地域資料として所蔵していますが、その文芸懇話会の皆様が、是非、阿東読書の日を制定したいということで、お話を持ち掛けられてまして、それに向けて独自でそういった読書の日が制定できるかどうかも含めて、検討を進めているところです。

○安光会長

何か意見等ありましたらお願いします。

○三坂委員

阿東図書館で最後に文芸懇話会読書の日というのを独自に制定できないか、という話がありましたが、先日、阿東の長門峡に紅葉を見に行きましたら、あそこは、中原中也の冬の長門峡という碑がありまして、入口に洗心館という2012年に閉館になっている中也がとても愛用されていて歴史ある料亭があります。それが、今は廃屋というか古くて12年閉館ですので、使っていないという状況です。長門峡はとてもきれいな散策、素晴らしいところで、その洗心館が、去年、長門峡の観光協会と中原中也記念館の協力で、2023年に長門峡が国指定の名勝に選ばれた100年目の記念ということで、中原中也と長門峡ということで、展覧会を、大きな規模ではないと思いますが、洗心館で開催されたという記事も山口新聞か何かで見かけました。

とても貴重な、地元の観光資源でもあると思いますし、去年もそういうことを

継続して、洗心館が閉館になった後もしておられるということなので、是非、そういうものを地元でも盛り上げて行かれたら、私も文芸懇話会読書の日で何かイベントがあったら伺いたいなと思いますし、文芸が好きな友達にも宣伝したいと思いますので是非検討いただけたらと思います。

○安光会長

他に何か意見等ありましたらお願いします。

それでは山口市立図書館サービスに関するアンケートの集計結果について、報告をお願いします。

○中央図書館 一村サービス担当主幹

5月26日の日曜日から、6月26日まで、約1ヶ月間、期間を設けて、図書館の利用者アンケートを実施しました。対象としては、中学生以上の来館者といいたしました。配布方法としては、6館の図書館と移動図書館の窓口での用紙を配布や図書館WEBサイトでも回答ができるようにしました。

結果としては、有効回収数1,027件で、紙が853人、WEBサイトが174人でした。アンケートとしては、以前、図書館サービス計画を作る基礎資料として市民アンケートを実施しております。この市民アンケートは、サービス計画を策定した令和5年3月の前年、4年度に実施しており、それに続いてのアンケートとなります。

この市民アンケートでは、郵送で回答を求めており、市民を無作為抽出しアンケート用紙を送付しています。こうしたことから対象が図書館を使っている方も、使っていない方もすべて対象として、市民に配布しました。

今回実施した利用者アンケートは、基本的には図書館の利用者ということになります。市民アンケートは住民票から住所を拾いますので、当然、山口市内にお住まいの方を対象としましたが、今回実施した利用者アンケートは、市民に限らず、周辺の市町にお住まいで、山口市立図書館を利用される方も含まれています。対象者は前回とは異なります。

調査結果について説明します。回収数は、1,027でした。市民アンケートは、概ね2,000通送って、回収数が701でした。前回の701に対して、今回1,027ですので、今回の方が少し回収数は多い状況です。

まず、調査結果ですが、対象者に対する属性の質問をしております。その中で年齢を聞いております。今回につきましては、回答の中心は60代と70代の方ぐらいです。60代、70代、あるいは、それ以上の方で半数を占めています。

前回の市民アンケートでも60代以上の方が非常に多いということで、そういう傾向が、どうしても出るのかなと思っています。

お住まいの地域を尋ねる項目です。山口市、21地域あります。それから今回は近隣の市町も含めて回答がありますが、一番多いのは小郡地域、それから、中央図書館の近隣の白石、湯田、それから大内辺りが多くなっています。この辺り

の傾向についても、前回の市民アンケートとほぼ同じような結果が出ています。ただ、下の方をご覧ください、宇部、防府、周南、美祢、萩、山陽小野田、津和野といった周辺の市町の方の回答もあるような状況です。

主に利用する図書館については、中央図書館が44%、小郡図書館が25%となっています。これも前回の市民アンケートと、ほぼ同じ傾向が出ています。前回より、小郡の割合が少し高いという状況です。

どこの住所の方が、どの図書館を最もよく利用したかという、クロス集計になっているのですが、これを見ると、どの地域の方が、どの図書館を使っているのかということで、非常に分かりやすい状況です。

山口市内を見ますと、北部の方は中央図書館の利用が多い、それから、嘉川とか、南部の方は、小郡の図書館の利用が多いということが見て取れるかと思います。それから、市外の方の利用を見てみますと、例えば、宇部市の方を見てみますと、一番利用が多いのは阿知須の図書館、近隣で近いからということですね、それから小郡、中央図書館も行っていることがある。

防府市の方は、中央図書館と秋穂図書館と徳地図書館が割れる様な状況です。例えば、防府でも大道とか、そういう、より西側の方は、秋穂図書館を利用されることが多い。小野とか、より徳地図書館に近いような方というのは、上にのぼられて徳地図書館を使っていたり、あるいは中心の方は、中央図書館を使ったりということで、まんべんなく山口の図書館を利用いただいているという状況が分かるかと思います。

それから移動図書館の欄を見ると、BM南というのがあります。これは中央図書館を起点として巡回する車ですが、こういった移動図書館が、まんべんなく市内の地域を回っているということが見てとれるかと思います。BM北というのは、阿東図書館を起点としてサービスを行っている車でして、徳地と阿東地域のご利用が多いということが、こちらの方から分かるかと思います。

図書館の利用頻度について問う項目です。1番多いのは、「月に数回使う」という方、「週に数回来る」という方、「毎日使う」方も2%程度ですがおられます。

それぞれどの図書館の利用者がどのくらいの頻度で使うかという、そういう項目ですが、でも、「月に数回」という方が、どの図書館も非常に多いということで、同じような使われ方をしているということが分かります。

図書館への交通手段です。それぞれどういった手段で図書館まで来ているかということです。山口という地域の特性もございしますが、ほとんどの方が車を使っているということです。75%の方が「自家用車」を使って図書館に通っている。残りは「自転車」と「徒歩」が多い。それでほとんどになる状況ですが、その中でも極端に車が多いということが見てとれます。

よく使う図書館までどのくらいの時間がかかるかです。自動車や徒歩、自転車もありましょうが、どのくらいの時間をかけて図書館まで来ているかという質問です。66%の方、6割以上が「15分以内」です。「30分以内」が22%、こ

の2つを合わせますと9割近くで、やはり図書館というのは身近な施設で、近隣にある、近くにあるということが大事なのではないかなと、この表から見てとれると思います。

主に利用する図書館について、こういった目的で利用していますか、何のために図書館、こういったことで使っていますかというお尋ねです。1番多いのが「本・雑誌・CD・DVDなど資料を借りる」ですね、これが全体の半数となります。それから「読みに来る、中で観覧・閲覧をする」が2割くらい、それから「くつろいで時間を過ごす場としての図書館」が、8.5%、1割くらいの要素になります。これも前回の市民アンケートとほぼ同じような結果が出ていますが、前回の市民アンケートは、実はこの「くつろいで過ごす」という選択肢を作っていませんでしたので、そこは今回、突出して上がった形にはなっていますが傾向としては、ほぼ同じなのではないかなと思っています。ここまでの回答は属性に関する項目でした。

図書館の満足度についてです。

まず、図書館の開館日数についての満足度です。「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「分からない」の中から回答をいただいています。開館日数は、基本的には「満足」「概ね（やや）満足」と回答いただいている方が多数です。概ね6割くらいの方が、「満足」「やや満足」という回答をいただいておりますので、中には不満を持たれているということで意見をいただいた方もありますが、概ねご満足いただけているのではないかなというふうに思っています。

開館時間についても「満足」「やや満足」合わせますと、6割くらいですが、開館日数に比べると、「やや不満」「不満」という回答される方が、比較的多くなっていると思います。

蔵書構成については、「満足」「やや満足」というパーセンテージは多少下がるのですが、「不満」という方は大体1割程度です。

本の配列・整備状態についても、同じような傾向ですが、こちらは「やや不満」「不満」が非常に少ない状況です。

企画展示などの特設コーナーについては、「満足」「やや満足」あるいは「普通」と答えた方が、ほとんど多数を占めている状況です。

検索機など本の探しやすさについても「満足」「やや満足」の割合が高いですが、「わからない」という回答も7.7%あります。いろいろな目的で図書館を活用されますので、本の検索機を使わないという方も一定程度はいるのではないかなと思うのでそういったところから「わからない」という回答も増えています。

新刊本の選び方やラインナップです。こちらも相対的に「満足」「やや満足」は高い状態です。「わからない」も一定程度はあります。10%くらいは、このことに関しては分からないという回答です。

貸出冊数、貸出期間です。本が10冊まで、雑誌が5冊まで借りられる、貸出期間は2週間ですが、こちらも特に不満が、一定程度ありますが、相対的には少

なくなっています。全体の6割くらいは「満足」「やや満足」という回答となっています。

本の予約やリクエストについても同じような結果が出ています。「わからない」も一定程度あります。本の予約をして取り寄せが出来たり、図書館が持っていない本をリクエストして購入希望を出したり、相互貸借の借り受けをしたり等のサービスについての質問です。

調べ物の相談、レファレンスについての質問です。「満足」「やや満足」は、相対的に少なく合わせて約30%です。それに比して極端に多いのが「わからない」で、これが3割あります。これはどういうことかということ、レファレンスサービスというもののサービス自体の認知がないということだろうと思っています。他のアンケート項目と比べて少し出方が違うものがあります。このレファレンスサービスと聞いた時に、「それって何ですか。」という、そういうことなのだろうと思うのですが、レファレンスサービスについて馴染みがない、結局使ったことがないから分からないということだろうと、そういった方が3割に上ることです。

図書館の駐車場や駐輪場についてです。こちらは、全体の質問項目の中で、「不満」「やや不満」が1番多い結果になっています。全体でいいますと、約2割が不満を持っていることになろうかと思います。相対的に「満足」も高いのですが、質問項目全体を見た中で、1番不満があるのは駐車場だろうということが、これから見てとれるかと思います。特に駐車場に対して不満が高いのが、中央図書館と小郡図書館です。よく混みあいますし、その2館の駐車場に対する不満が、非常に高いということが見てとれるかと思います。

施設・館内設備に関する項目です。こちら概ね「満足」「やや満足」「普通」という回答が多くなっています。

空調や照明などの館内環境についてです。こちら全体的に満足という回答をいただいておりますが、中央図書館が「やや不満」「不満」という回答が、少し高いということが見てとれるかと思います。

席の数、利用のしやすさについても概ね「満足」「普通」という回答ですが、こちら中央図書館と小郡図書館の「不満」が少し多い状況です。

本や調べ物に関する職員の知識についてもレファレンスと似ていますが「わからない」が多いです。同じような意味合いだと思いますが、調べ物に対して、職員に問うことがないので「わからない」としたのではなかろうかと思います。「不満」や「やや不満」も非常に少ないということです。不満ではなく分からないのだろうと思っています。

窓口・電話での職員対応についても全体的には満足度が高く、「不満」「やや不満」はごく少数となっています。「わからない」は、一定以上あります。職員の身だしなみについても、問題であるとの回答は、ほぼない状況です。

職員対応の正確さ・迅速さについても基本的には「満足」「やや満足」が多くな

っており、「不満」は少ない状況です。ここまでが、図書館全体の満足度に対する質問項目でございました。

続きまして、今後、山口市立図書館が充実すべきと考える資料はどれですか。こういった資料をこれから増やしていった、伸ばしていく方向性がよろしいでしょうかという問いでございます。1番多いのは一般書、一般の方が読む小説や趣味、教養、仕事や社会上の課題解決に役立つ本、との回答が圧倒的に多いです。次が雑誌、CD・DVDなどの視聴覚資料、絵本・児童書という並びです。この傾向は、前回の市民アンケートでも、ほぼ同じような結果が出ています。一般書を1番充実させて欲しいという結果があります。アンケートの対象が、中学生以上としているのも大きいと思います。小学生以下に聞いたら「絵本」と答えたかもしれませんが、中学生以上となるとこうした回答になるということです。ティーンズ、地域資料となっています。電子書籍やデータベースなどのデジタル資料は、少数で2%でした。

電子書籍についての質問項目です。山口市は、電子書籍のサービスを導入していませんが、この導入についてどう思うかの問いです。「利用したい」が3割程度、「利用したくない」が25%、「わからない」が4割です。全体の3割程度が利用したいという回答です。年齢別に見た時には、若い人が利用したいという割合が高くなっています。年齢が上がるにしたがって、利用したいという回答が少なくなっています。

電子書籍でこういったものを利用してみたいかという質問項目に、1番多かった回答が小説で、雑誌、趣味、実用辺りが高い回答となっています。

図書館が提供するもの以外で、電子書籍をこれまでに自身で契約したり、あるいは自身で無料のサービスを使ったりしたことがありますかという質問項目です。全体の2割が、これまで電子書籍を「利用したことがある」ということで、残りが「利用したことがない」との回答でした。思ったよりも低いなというのが感想ですが、冒頭に言いましたとおり、今回のアンケートの半数が高齢者、60代が回答しているということを考えてもらっていいと思います。図書館の利用者で見た時どうかということになるかと思います。そうした中で、1番利用が多いサービスは何かの問いですが、アマゾンKindleを使う方が1番多いということでした。今、電子書籍の民間のサービスの中心はコミックにあると思いますがコミックシーモアや、めっちゃコミック、LINEマンガ等テレビでCMをしているサービスの利用が非常に多い状況です。

図書館からの情報発信についての質問項目です。図書館に関する情報、例えばイベントや休館日をこういった媒体・メディアで入手しているかです。1番多かったのは館内の配布物・掲示物、図書館の利用者に問うていますから、必ず来ているわけで、出入りする時に必ずご覧になられるということで、「配布物・掲示物で確認する」というのが1番多く35%でした。続いて「ウェブサイト」はよく見られています。それから「市報やまぐち」や「図書館だより」という順番で情

報を入手していることが確認できます。

図書館ウェブサイトの利用頻度の質問項目は「利用しない」が1番多く、使っている中では「月に数回」が多く、「週に数回」が、続いて多いです。逆に図書館ウェブサイトは、図書館利用者の約6割が使っていることが見てとれます。

図書館のウェブサイトで、どの機能をよく使うかの質問項目です。1番多いのが検索です。本を調べるということで使われている。そこから、予約や借りている本の延長をしているのではないかと思います。それから図書館カレンダーが次に多くなっています。

イベント案内、行事の案内が8%くらいに留まりました。マイ本棚というサービスは、借りている本等を登録する機能ですが、それは、全体の3%程度に留まっています。

I n s t a g r a mやXなどのSNSで情報発信した場合、使ってみたいかという質問項目ですが、「使いたい」は2割に留り、特に「利用しません」は34%です。図書館休館日等の情報は、プッシュ型で通知されるよりも、必要な時にアクセスするということなのかなと思います。その理由については、ウェブサイトの機能で十分が43%、それから今回、高齢者が回答の中心ということもあって、SNSを使わないが53%となっています。

昨年からマイナンバーカードで本の貸出ができるサービスを始めました。それからスマートフォンで、図書館カードのバーコードを表示させて、本の貸出ができるというサービスを開始しました。それを「知っていて使ったことがある」という方は6%に留まりました。実際の利用は、非常に低い状況です。

その理由は「紙のカードの方が利用しやすい」が67%、「手続きや操作が面倒だ」が21%、「スマホとかマイナンバーカード持っていない」が6.7%です。

自動貸出機については、中央図書館に4台、小郡図書館に1台、貸出用の機械を設置しています。質問項目としては、自身が機械で貸出をするのが良いのか、窓口で職員が貸出処理をするのが良いか尋ねています。これは「窓口で貸す方が利用しやすい」が37%、「自動貸出機の利用がいい」が9%で、多くの方は窓口での貸出を望んでいる状況です。突出して多いのは「わからない」「無回答」で、半数以上を占めています。自動貸出機の認知に対して疑問が、この辺りから生じてきます。これを知らないこともありますし、地域館に設置していないこともありますので、それに対する理解度や認知度が少し不足していることが読み取れます。

予約棚についての質問項目です。予約棚は山口市では導入しておりませんが、I C タグ等を導入している図書館を中心に、部屋を用意して予約本を置いています。利用者が自身で本を取り、自身で予約本の貸出をする仕組みです。これを使ってみてほしいかといった質問ですが「新しい仕組みでやってほしい」が2割程度、「窓口でこれまで通りやってほしい」が35%、「わからない」「無回答」が43%でした。

山口市立図書館サービスに関するアンケートの集計結果については以上です。今回の利用者アンケートの結果を踏まえながら、今後のサービスの進め方を考えていきたいと考えています。

○安光会長

自由記述の内容について説明をお願いします。

例えば、駐車場や開館時間に対するコメントがあれば説明をお願いします。

○中央図書館 一村サービス担当主幹

開館時間については、朝10時よりも早く開館してほしいという意見もありました。閉館は、17時または19時ですので、それより遅く閉めてほしいという意見もありました。様々な意見がありました。特定の曜日だけ、すごく長く開けてはどうかや、年中無休にしてはどうかとか、様々な意見がありました。それぞれ生活スタイルにあった開館時間を望んでいるということだと考えていますが、結果として、こういったパーセンテージとなっています。

○安光会長

以前実施した県立大学とコラボしたアンケート調査では、開館時間を早くしてほしいとか、遅くまで開けてほしいとかの意見がありました。

県立図書館の開館時間がもう少し早いので、恐らく10時開館が遅く感じられるのかもしれませんが、これは、排架作業などがあるので仕方ないのかなと思っています。

自由記述で反映できるものについては、反映されると思いますが、この件について質問などありましたらお願いします。

○中村委員

次回アンケートの参考にしていただけたらと思います。「普通」という回答項目ですが、自分の思っていることが「普通」か「やや満足」かというのかが、少し判断がしづらくて、全項目ではないですが「普通」がなくても良い項目があるのではないかと思います。そうした場合「普通」と回答しているかと思いますが、それが「やや満足」になるか「やや不満」になるかで、かなりアンケートの回答内容が違ってくると思います。次回は、取り扱いを検討された方が良いかなと思いました。

○安光会長

毎年実施されますか。

○中央図書館 一村サービス担当主幹

予定しておりません。

市民アンケートは、サービス計画策定の前年を目途に実施してきました。今回の利用者アンケートにつきましては、その中間的な位置づけとしてできればということがございます。

○安光会長

他に意見はありませんか。

○伊東副会長

非常に良い結果が出ていますよね。レファレンスについての認識がないというのは、明らかに現れていると思います。そして、図書館に来て何をするのかという時に、調べ物をするという人はある程度いるのにも関わらずレファレンスサービスについての認識がないということは、要は今あるものの中で、自分で調べ物はしているのだけど、レファレンスサービスは、あまり使っていない。そして、職員の知識についての問いに「わからない」が多いということは、やはり職員が調べ物の手伝いすること自体をあまり利用されていない方が、自動貸出機を使っているわけではない。誰がこのアンケートをお答えになったのか、利用者の方から60代以上の方だという話もあるので、そういう特性もあるかと思いますが、基本的には今ある蔵書の中で、概ね満足しておられて、その中で調べ物もするし、主に使っているのは小説だったり、自分の仕事に役立つような本だったりという状況で、蔵書構成については、ある程度満足をしておられるのだと思います。

もう1つが、蔵書構成が「やや不満」となっているのが利用の多い図書館ですね。中央図書館は少ないですけど、小郡図書館などは。中央図書館と小郡図書館は、利用が多いというところがあるので。中央図書館と小郡図書館とそれ以外の図書館については、いわば市民の人たちの期待のされ方が少し違うのではないかな。使われ方が少し違うのではないかとすら思います。それは「駐車場が狭いのだよ」というのが、小郡図書館と中央図書館に多く、駐車場が狭いという要望が出てくるということは、それだけ利用したいと思っている。ほとんどの人が車で来ているわけですから、他の図書館だったら、他の図書館の駐車場がそんなに広いわけではないと思いますが、そこまで混まないのではないかと思いますよね。そんなに混まないから他のところに不満はでないけど、中央図書館と小郡図書館については駐車場が混む、駐車場が少ないのだよというくらいに期待があって、その中で要望されているものについては、蔵書構成とかについても多少の不満はあるというようなところですね。これで関係あるのかどうか分かりませんが、予約等は、スマホからでもできるようになっていますが、リクエストについて、つまりこの図書館に蔵書してないものを借りたい時は、リクエストカードを出さなければいけないようになっていますよね。

○中央図書館 一村サービス担当主幹

紙に書かれたものを窓口で受け付けています。

○伊東副会長

窓口のみですか。月に何冊ですか。

○中央図書館 一村サービス担当主幹

市民に限って3冊です。

○伊東副会長

3冊とありますよね。それと先ほどのレファレンスサービスがあまり浸透して

いないというのもあると思いますが、そのレファレンスも、図書館の計画の中では、メールによるレファレンスもする計画もあったと思いますが、結局メールによるレファレンスの中で、例えばこういう本が読みたいが、この図書館にはないということになると、それを他の図書館から相互貸借することにも繋がりますよね。

リクエストは、新刊ばかりについて出るわけではないので、既に流通していないような本に対しての取り寄せてほしいというようなリクエストも出ます。それが、メールで予約と同じようにリクエストが出せる様になると、その図書館の蔵書構成、蔵書に対する利用も、もっと増えるのではないかなと思います。そして、借りに来るときには、移動図書館以外では図書館に来館しなければならないので、そうすると来館者も増えるし、しかもリクエストをした本や予約した本だけで、リクエストをした本が6館の中で、近くの図書館で借りることができます。今後、デジタル技術の活用を考えるのであれば、リクエストをメールでできるようにするとか、予約と同じように簡単な手続きでリクエストができるようにすると良いと思う。それと、新刊で、購入するのかしらないのかという判断は、もちろん図書館がやるわけで、必ずしもそれに対しては月に3冊という制限はあってもいいと思いますが、他の図書館から借りて提供することを進めていくと、もっと利用が増えるのではないかなと思います。

図書館のウェブサイトの利用頻度は、「週に数回」が15%、「月に数回」が25%もいる。利用しないと「無回答」で、ほぼ半分が40%くらいなっていますが、図書館の情報を紙で得る人が多いという話でしたが、それは、これを回答した人が60代以上だということもあるのかもしれないし、実際に利用しに来ている人、利用者だからということもあるかもしれません。もっともっとウェブサイトのまずファーストステップとして、図書館に対するアクセスのファーストステップとして、ウェブサイトがあってもいいのではないかな。もっとウェブサイトの利用を増やした方が良いのではないかなと思います。

先ほどの話にも繋がりますが、予約をしたり、貸し出しの期間を延長したりというのと同じような形で、本のリクエストができるということになると、自分が何か本を読みたいと思った時に、まず図書館のウェブサイトを開いてみる。そこで図書館のウェブサイトで蔵書があれば、もちろんラッキーでいいですが、人気のある本だったら貸出中でしょうから、そうであればすぐその場で予約をかける。それでも自分がまだ読みたいと思えば、その時点で「じゃあ買っちゃうよ。」という人もいるかもしれません。そうすると山口市内では、だいたい書店が少なくなってきましたら、例えばネット書店で購入するということになるかと思いますが、そうでなくても待つても良いから借りて読みたいのだということであれば、そこで図書館にリクエストが出せるというような、ワンストップでいわばスマートフォンなどの中で、読書をする時のファーストステップができる。そういうように、使いやすいウェブサイト改善していくと利用が増えてい

くのではないかなと思います。そうすると駐車場が狭いなということも、もう少し改善していかなければいけないかと思いますが、もっと他の図書館の利用も増えていくのではないかと思います。そういう傾向が、何となく見えてくるということです。

今のところ図書館に対して、これ以上のことは望んでいないけれども、だから「図書館はこんなものだよ」と思われていると言うと言い方が悪いですが。そこまで期待されていないみたいな部分がある。期待はされていると、使われていると思いますけど。「図書館でもっと自分が本を読んだりする」「情報を得るのはまず図書館なのだ」「山口市立図書館をメインで使うのだ」という感じまでにはなっていないような気がします。期待はある訳ですから、もう少し使いやすく改善していく動きは、あるのではないかなと感じます。

○安光会長

電子メールレファレンスのことを言われましたが、令和7年度実施となっている電子図書館サービスの導入やウェブサイトの更新、システム更新はいつですか。

○中央図書館 大井館長

システム更新はサービス計画上、令和7年度としており、そこを目指して、取組をしています。ウェブサイトも併せて更新する予定で準備中。

○安光会長

ウェブサイトについては、これまでのウェブサイトを踏襲されるのもいいですが、一画面で大体の情報が見られるようにしてほしいです。もう少し構成を考えていただければよいと思います。もう少し親しみやすく、トップから分かりやすくして欲しい。良い機会なのでぜひやっていただきたいと思います。

○伊東副会長

工夫の仕方は沢山あると思います。どこの図書館の方が良いとか悪いとかいうことではなくて、今どこの図書館でも、ウェブサイトの構成やデザインについては気を付けていると思います。高齢者もスマホを持っています。スマホの画面の使いやすさを求める時代になってきていると思いますので、そうした中で、様々な機能として、自分の借りているものや開館日の確認等、したい時に、誰でもが分かるような画面になっている。これは、図書館のというよりも、一緒に作る方のセンスだったり、機能だったりするところがあると思います。そこはどこが良いとか悪いとかではなくて、いろいろなところが工夫しているので、それにも力を入れて時間を使う方が、良いのかもしれないと思います。ファーストステップとして接触するところが、今やスマホになっているのではないのかなと思います。スマホを使わないで図書館に来る人ばかり、図書館からのお知らせなどで、コミュニケーションが成り立っていたとすると、それはそれで閉じられたコミュニケーションになってしまうのではないかなと思う。図書館に、今までまだ来たことがない人も「図書館行ってみよう」となるような、予約をしてしまうような、

そういった画面にしていけばいいのかと思います。

○安光会長

他に質問はありますか。

○井上委員

図書館と書店の連携の取組ということで、最近、図書館と書店の連携についてラジオやテレビで取り上げられています。これには今年だけでも6月に文部科学省から図書館、書店など連携実践事例集として、今年10月に経済産業省書店進行プロジェクトチームの関係者から指摘された、書店活性化のための課題の公表を背景にしたものと思われます。山口市でも地元老舗書店の文榮堂が、今年4月に70年余りの歴史に幕を閉じました。今、市内にはチェーン店が残っていますが、書店文化がなくなることは、図書館にとっても無関係とは言えないと思います。鉢の子では、講演会を開催する時には、会場内で図書販売を地元の書店にお願いしていますが、全国的には図書館と書店が協力して読書イベントの取組をしているところもありますが、日本一本を読むまちとのプライドのある、山口市ではどのようにお考えでしょうか。本と出会えるまちじゅう図書館の取組はとても良いと思いますが、図書館と書店の連携で市民が本と出会う機会を多くする取組はないでしょうか。また、私たちがお手伝いできることはないでしょうかということが1つです。

○中央図書館 大井館長

図書館と書店の連携の取組についてですが、イベント時の本の販売です。例えばワークショップや講演会した際に、講師の作家の本を書店の方に来ていただいて販売していただくということを中央図書館でしております。

昨年は、中央図書館開館20周年でしたが、その際に写真家の石川直樹氏に講演いただいた後に本の販売をしまして、サイン会もしました。子どもの読書の関係では桃戸栗子氏のワークショップとサイン会でも同じようなことをしました。

その他、図書館まつりの中で出張！とく選文庫というのを山口日産さんが小さな本屋さんをやっておられますが、そことコラボしたイベントを実施しました。これはまちじゅう図書館の取組でもあります。コラボしたイベントなどもしています。

少し前になりますが、平成30年に中心商店街で、まちづくり山口が主催で山口ブックストリートというイベントをされました。その際に、文榮堂と日本出版販売と中央図書館でコラボいたしまして、移動図書館の運行をしたり、ビブリオバトルの協力をしたりするなど連携しました。

最後に資料の購入についてですが、それも地元の書店でというようなことも新聞紙上に出ておりますが、山口市立図書館は、もちろんほとんどの本を地元の書店から購入しています。イベントを頻繁にするということにはなっていませんが、国の動向や他市の状況などを注視しながら、引き続き、書店との連携も進めたいと思っています。

○安光会長

井上委員からは、それに対して協力できることはないでしょうかというお尋ねでしたので、その回答はいかがでしょうか。

○中央図書館 大井館長

どのようなことができるのかということから、まず始めていかないといけないと思いますので、またそういうところになりましたら協力をいただくようなこともあるかもしれません。その時にはよろしくお願いします。

○安光会長

他に質問はありませんか。

○井上委員

読書バリアフリーの取組についてです。読書バリアフリー法が成立して、誰もが読書ができる社会を目指しての啓発事業が図書館にも求められています。今年度20周年を迎えたトネリコでは、9月にトネリコ学習会、図書館における障がい者サービスについてを実施、要約筆記のついた講座で、実際に聴覚に障がいのある方が参加されました。鉢の子でも15周年の事業で2月に多文化共生を考える一環として、読書バリアフリーをテーマに学びの講座を計画しています。そのような取組の中、いろいろな図書館を見学しますと、特別な取組もありますが、図書館では誰でも利用できることを図書館入口に展示などで示し、障害者サービスを市民の方に、まずはお知らせしているスタイルが目につきます。視覚に障がいのある方への点訳、翻訳などは、図書館まつりでも知られていますが、活字を追うことに障がいのある方、ページをめくることに問題のある方、また図書館ではこういうサービスもあるということをお知らせしても良いのではないのでしょうか。

また、目録上でLLブックと検索すると関連図書があると分かりますが、配架は分類順通りに並んでいます。LLブックが何を意味するか必要な人に届くのか疑問です。障がいを気にされている方もいると思いますが、目録や配架を工夫して、気にせず手に取っていただけないものかと考えます。私たちが気付かなくて、市内の図書館で取り組まれている例がありましたら教えていただきたいと思っています。

○中央図書館 大井館長

今年の3月の協議会、今年度からの委員さんもおられますので、3月の協議会でも少しその読書バリアフリーのことをお話がありましたが、繰り返しになるかもしれませんが、改めて障がい者に対するサービスの現状ですが、対面朗読サービスや障がいのある方への郵送貸出、館内の設備として拡大読書器、音声を読み上げできるソフトが入ったパソコン、蔵書として大活字本やLLブックがありまして、目の不自由な方へのサービスをしています。

また、全く見えないのではなく、見づらいというような方もおられると思いますので、そういった方にはリーディングトラッカーやリーディングルーペを館内

に置きまして、利用いただいております。

県立図書館との連携で、点字の図書や雑誌等の相互貸借、取り寄せにも対応をしているところです。

そういった中で、先ほどありました広報をどうするのかというところですが、対面朗読については館内にお知らせを貼りだしたり、大活字本はポスターを貼ったりということで、サービスのご案内をしています。また、ウェブサイトでも案内をしております。その他、図書館だよりでは点字資料の市報やまぐちやそれ以外の点字の資料のご案内をしています。今後も可能であれば、市報等を活用して周知を図っていきたいと考えています。

LLブックについては、イラストや絵文字を使った分かりやすく優しく読める本でして、そういったLLブックについては、館内オパックでLLブックと検索しましたら出てきます。その検索した際に、どこに本があるかという図面も表示されるようになっていきますので、そちらで見ていただけるのかなと思います。それでも、分からなければ、ぜひ職員に聞いていただいて、読書案内をするのが図書館職員の大きな使命ですので、ぜひ聞いていただいて案内をさせていただけたらと思っています。LLブックに限らず、どのような本でも、どこにあるか分からないというのはあるかと思いますが、ぜひ聞いていただいて、ご案内をさせていただきたいと思います。ご理解をお願いします。

○井上委員

ありがとうございます。

○安光会長

他に質問はありませんか。

若原委員いかがですか。

○若原委員

平川中学校で国語科と学校図書館の担当をしております。子どもの読書のことについてお話しできることがあるのかなと思いますが、中学生はなかなか読書をする時間が取れません。部活動であったり、今期末テストのテスト週間であったり、3年生は進路のことについて今から忙しくなりますが、その心の休まりどころが読書にあるのではないかなと考えています。ですので、子どもたちに読書の推進は引き続き進めていきたいと思っています。

先日、秋の読書タイムという取組を平川小学校と一緒に、連携して行いました。家族で読書タイムなので、家族みんなで読書をしようということで取組をしましたが、その際、終わった後の家庭へのアンケートで、「これを行ったおかげで、子どもと一緒に図書館に足を運んで本を探す機会ができました。」というような声をいただきました。図書館が近くにある学校で良かったかと、非常に思いました。この場を借りてお伝えできたらいいなと思いました。

○安光会長

他に質問はありませんか。

岡藤委員いかがですか。

○岡藤委員

小中学校が近くにありますが、平川小学校でも学期に一度、読書タイムというのを取っております。その際に家で読書する時間を取ってくださいという取組と、図書館に足を運んでくださいという投げかけをしております。先ほど言われたように、「こういう機会があると、図書館に行くことができました。」というご回答もいただいています。日頃は、図書館さんには団体貸出であったりとか、カード利用の促進をしていただいたりして、非常に学校と関わっていただいて、とても助かっています。今も調べ学習などで、たくさんの本を貸していただいて、しかもそれも準備していただいて、こちらに貸していただけるということで、そういった活動については、非常に私たちにとって大切な場所になっていると思っています。いろいろお話を聞いていて、非常に良い取組をしていらっしゃるのので、こういったチラシも学校に届いたりとか、貼ってあったりとかするのですが、意外ときちんと見ていなかったりとかして、周知されていなかったなどというがあるので、少し学校などでもこういうのを見かけたらどうと声を掛けるのも1つの手かなと思いました。アンケートの中で、やはり低年齢層の利用は…アンケートを書く人もそうだと思うのですが、利用もしかしたら、やはり少ないのかなと思うので、せっかくやはりこうやって図書館が近くにあるので、もう少し利用できるように学校の方も声かけができたらいいかと思います。

○安光会長

福永委員いかがですか。

○福永委員

障害者サービスの話がありましたが、夏休みに秋穂図書館で、ある障害者施設のデイサービスだったと思いますが、障がいのある子どもたちを何人か連れて秋穂図書館を利用されていました。いろいろなお子さんがいらっしゃるのでも静かにできないこともあるのですが、上手に対応してくださっていましたし、周りの人も何の偏見もなく、ずっと見て、温かく見ていただいていた、夏休みにいろいろなデイサービスありますが、やはりデイサービスの中でもなかなか外に出る機会がないのに、私それは宇部の西岐波のデイサービスだったのですが、宇部から秋穂に連れてきていましたが、良い経験させていただいているなと思ってみたことがあります。分かる視覚とか聴覚とか分かる障がいの方もですが、そういう障がい児たちも上手に、それぞれの図書館が利用できる社会になるといいなと思っていたのを思い出しました。

○安光会長

属委員いかがですか。

○属委員

時々リクエストを利用しています。市内のいろいろな図書館から借りて用意していただいて借りますが、先日用意していただいた本は、下関中央図書館の本で

した。感激しました。すごく嬉しかったです。すごく嬉しくて、いろいろな人にこういうサービスをしてほしいので、さっきアンケートにもありましたけど、この「わからない」というのがもったいないですね。学校に読み聞かせに行ったりした時、この話を子どもたちにしています。どのような本でも図書館職員にお願いしたら、どこかで探して貸してくださるよと宣伝しています。これ本当にもったいないので、図書館を利用しようという気持ちにもなるだろうし、図書館の方もこの力を発揮されるというか、窓口に来て直接やり取りして力を発揮される。また利用しようという気持ちにもなると思いますので、もう少し館内に、分かるようにするとよいと思います。館内でしか分からないかもしれませんが、帰って私のように宣伝してくださると思いますので、館内にもう少し分かりやすく、目に付くような工夫をしていただけたらと思います。

○安光会長

三坂委員いかがですか。

○三坂委員

山口市立図書館の除籍本は、市民はもらえないのですか。雑誌については規定があってもらえます。窓口で「雑誌以外の本の除籍本を市民はもらえないのですか。」と言ったら、「それ以外の本は廃棄しています。」と言われて、雑誌以外の除籍本は、山口市は全部廃棄ということでお伝えするのに間違えないですか。

○中央図書館 大井館長

除籍した図書ですが、ほとんどのものが破損や劣化したものが多いということと、内容がかなり古かったりして、これは使えるのかなというようなものがほとんどな状況です。そういったことで除籍にやむを得ずしているようなところで、そのような状況です。中には新しい本だけでも、汚れや水に濡れて波打ちしているというのもありますが、ほとんどはかなり古くなったものなので除籍をしているというところでは除籍した資料を差し上げるということをしているという話を聞きますけど、それほど利用がないのではないかとということで、今のところ除籍をして廃棄という取り扱いをしております。また検討させていただきます。

○三坂委員

納得です。ありがとうございます。

○安光会長

中村委員いかがですか。

○中村委員

少し提案が2つほどあります。1つは、12月の初めから県立図書館が長期の休館に入ります。さっきからレファレンスにしても相互貸借にしても、こういうことが図書館でできるということが認知なかなかされていないということがありますが、県立が閉まっている時こそ、ここでそういうことを実際になさっていけば、その人たちがまた県立が開いた後もそういうサービスを使われるようになる

と思います。今がいろいろなサービスのPRの時かなという気がしますので、何か工夫していただけたらと思います。もう1つがバリアフリーのことがあったのですが、視覚とか聴覚とかのそういう障がいの方だけではなく、私自身もそうなのですが、中央図書館の場合、棚の名前がB-14とかアルファベットと数字で表示されています。それはハードルが高い気がします。できるならば6館全体に山口サインのようなものを考えて、自然科学はこういうマーク、社会科学はこういうマークとか、デザインで。B-14とかではなくて、デザインである程度示されるようになると良いと思います。例えば外国人国籍の方だとか、そういう情報の処理に、なかなか困難なことがある方にも見て分かりやすいものができるのではないかなと思います。ご検討いただけたらと思います。

○中央図書館 大井館長

県立図書館が閉まる12月3日です。例えば、利用案内を置いていただけてお配りいただくようなことをするとか、そういったことはできるのかなとお聞きして思いました。

バリアフリーについてですが、アイコンの様なものだと思いますが、どういったことができるのか研究してみたいと思います。

○安光会長

蔵書点検期間が県立や市立で重複しないように調整をお願いします。今年は県立図書館の工事があるので難しいと思いますが。

作家等の講演会で要約筆記ができることを広報物に入れていただくようお願いします。

電子図書館サービスの導入については、13市のうち3市が導入していません。長門・柳井・山口が導入していないということですが、これは学校図書館との連携を考えると、やはり早急にやらないといけないことではないかと思います。

国立国会図書館のレファレンス協同データベースの参加館に入っていません。なぜ参加館に入っていないのでしょうか。自分たちの資質向上のために日頃のレファレンスの事例をアップしていくことは、とても大切なのでチャレンジしてください。

県の子どもの読書の会議がありましたが、ある読書ボランティアから「コロナの前は学校に入っていたが、コロナが終わってからも学校に入りづらい状況であると聞きました。その辺は、また調べていただきたいと思います。回答は結構です。

○安光会長

他に質問はありませんか。

(意見なし)

意見がないようですので、第2回図書館協議会の議事は、終了いたします。事務局にお返しします。

	○中央図書館 高村管理担当主幹 次回の開催時期は、3月の中旬を予定していますが別途日程調整いたします。 また、前回の議事録は、今回の会議資料と併せて11月11日に発送しています。訂正等がありましたら来週月曜日までに連絡をお願いします。意見を反映してウェブサイトに掲載します。 以上で令和6年度第2回山口市立図書館協議会を終了いたします。ありがとうございました。
	山口市立中央図書館 TEL 083-901-1040